

メッセージ 3

初めの愛をもって主を愛し、
命の木としての主を享受し、
イエスの証しとしての金の燭台となって、
神の永遠のエコノミーの目標としての新エルサレムを建造する

聖書：啓 2:1-7. エペソ 6:24. IIテモテ 1:15.

IIコリント 11:2-3. ヨハネ 14:21, 23. 21:15-17

- I. 啓示録第2章7節で命の木は、十字架につけられ（一片の木材としての木において暗示される——Iペテロ 2:24）、復活した（神の命において暗示される——ヨハネ 11:25）キリストを表徴します。彼は今日、召会の中におり、この召会の究極的完成は新エルサレムとなり、その中でこの十字架につけられ復活したキリストは命の木となって、神のすべての贖われた民の養いと享受となり、永遠に至ります（啓 22:2, 14. 参照、出 15:25-26）。
- II. アジアの諸召会は、エペソに在る召会を含めて、使徒パウロの婚約させる務めから離れ去ってしまいました（IIテモテ 1:15. IIコリント 11:2-3）。こういうわけで、わたしたちが見るのは、およそ二十六年後、使徒ヨハネがエペソに在る召会に書簡を書いたとき、彼らはすでに初めの愛を離れていて、命の木としてのキリストの真の享受を失っていたということです（啓 2:4-5, 7）：
 - A. 新約の真の務めは常にわたしたちを奮い立たせて、初めの愛をもって主イエスを愛させ、わたしたちを強めて、単純に命の木としてのキリストを食べさせ享受させ、わたしたちの命の供給とならせます——IIコリント 11:2-3. 3:3-6。
 - B. 初めの愛をもって主を愛することは、すべての事において彼に首位、第一位を与えて、彼の愛によって押し迫られ、わたしたちの生活の中で彼をすべてとして尊び、受け入れることです——啓 2:4-5. コロサイ 1:18 後半. IIコリント 5:14-15. マルコ 12:30. 詩 73:25-26。
 - C. エペソ人に対する書簡におけるパウロの結びの言葉は、「不朽不滅の中で、わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人」に対する恵みの祝福です（エペソ 6:24）。エペソ人への手紙において、「愛の中で」という感情豊かな句が、繰り返し用いられています（1:4. 3:17. 4:2, 15-16. 5:2）。
 - D. エペソ人への手紙の目標は、わたしたちを神の内なる実質である愛の中へともたらすことです。それはわたしたちが、愛としての神を享受し、神聖な愛の甘さの中で神の臨在を享受して、それによってキリストと同じように他の人たちを愛するためです——エペソ 1:15. 2:4. 3:19. 5:2,

25. 6:23. 参照、I ヨハネ 4:16-19。

E. エペソに在る召会は、主を愛するという事において失敗しました。そのような失敗は、各時代における召会の失敗のおもな原因となりました——マタイ 24:12. マルコ 12:30-31. 参照、ダニエル 7:25。

F. 啓示録第2章1節から7節のエペソに在る召会への主の手紙には、四つの主要な点があります。これらの四つの主要な点は、英語の「L」の文字で始まる四つの言葉であり、それは「愛 (love)」、「命 (life)」、「光 (light)」、「燭台 (lampstand)」です：

1. わたしたちはあらゆる面において、またあらゆる事において、主イエスに首位を与えて、初めの愛を回復しなければなりません。そうすれば、わたしたちは彼を命の木として享受します。そして、この命は命の光となります——ヨハネ 8:12. エペソ 5:8-9, 13。

2. その後、わたしたちは、金の燭台として、イエスの証しとして輝いているでしょう。そうでないなら、燭台はわたしたちから除き去られるでしょう——啓 1:9-12, 20：

a. 金の燭台は、三一の神を象徴します。すなわち、父は実質であり、子において具体化されています。子は具体化であり、霊を通して表現されます。霊は諸召会として完全に実際化され、表現されます。そして諸召会は、イエスの証しです——出 25:31-40. ゼカリヤ 4:2-10. 啓 1:10-12。

b. 神聖な思想において、金の燭台は実は、生きており成長している木であり、萼とアーモンドの花を持っています。このゆえに、燭台は、キリストにおいて具体化されている三一の神が、生きた、復活の金の木であることを描写しています。それは、わたしたちの中で、わたしたちをもって、わたしたちによって、わたしたちの中から成長し、枝を出し、つぼみを出し、開花し、光の実（その霊の実）を生み出します。この実は、性質において良いものであり、手続きにおいて義であり、表現において真実です。それによって神は、わたしたちの日常の歩みの中の実際として表現されます——出 25:31, 35. エペソ 5:8-9. ガラテヤ 5:22-23. ヨハネ 12:36。

G. 命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです。命の木としてのキリストは、「食べるのに良い」ものであり（創 2:9）、それによってわたしたちは、彼を食べてわたしたちの享受とすることができ、また彼で構成されて神の表現となることができます（1:26. ヨハネ 6:57, 63）：

1. 召会生活の内容は、キリストの享受にかかっています。すなわち、わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。

す。しかし、キリストを享受することは、わたしたちが初めの愛をもって彼を愛することを必要とします。

2. もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れるなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台はわたしたちから除き去られます——啓 2:1-7。

3. この三つの事柄（主を愛すること、主を享受すること、主の証しとなること）は並行します。

Ⅲ. 主の回復は、初めの愛、すなわち最上の愛をもって主イエスを愛することの回復であり、また主イエスを命の木として食べることの回復であり、キリストの有機的なからだを建造するためです。それは、神の永遠のエコノミーの目標としての新エルサレムを建造することです——エペソ 4:15-16. 啓 22:14 :

A. わたしたちは、命の木としてのキリストを享受するために、絶えず彼に、「主イエスよ、わたしはあなたを愛します」と告げなければなりません。わたしたちが主イエスに対する燃える愛を持ち、すべての事で彼に第一位を与えるなら、彼であるすべてを享受します——啓 2:4-5, 7. I コリント 2:9。

B. 主を信じることは、主を命として受け入れることです。主を愛することは、主を命として享受し、わたしたちが受け入れたこのパーソンを享受することです。信仰が神によってわたしたちに与えられているのは、わたしたちが信仰によってキリストを命として受け入れるためです。愛は、そのようなすばらしい信仰から出てくるものであって、わたしたちが、わたしたちの命としてのキリストの中で、三一の神の豊富すべてを生かし出すことができるようにします——II ペテロ 1:1. ヘブル 12:1-2 前半. II コリント 4:13. ガラテヤ 5:6. ヨハネ 1:12-13. 21:15-17. コロサイ 3:4。

C. わたしたちが主イエスを信じたときに受け入れた命は、パーソンです。そして、このパーソンを適用し享受する唯一の道は、初めの愛をもって彼を愛することによってです。わたしたちの命としての主イエスはパーソンであるので、わたしたちは彼との新しい接触を持って、この瞬間、日ごとに、彼の現在の臨在を享受する必要があります——ヨハネ 11:25. 14:5-6. I テモテ 1:14. II コリント 5:14-15. 啓 2:4-7. コロサイ 1:18 後半. ローマ 6:4. 7:6。

D. 「あなた自身をささげて主を愛しなさい。このように有効な道は他にありません。このように安全で、このように豊かで、このように享受に満ちた道は他にありません。ただ彼を愛しなさい。他の事を気にしてはいけません」——ウイットネス・リー全集、1972年、第1巻（上）、「雅歌において描写されている命と建造」、第2編。

- E. わたしたちが彼を愛するとき、彼はご自身をわたしたちに現します。そして、彼と御父はわたしたちの所にやって来て、わたしたちと共に住まいを造ります（ヨハネ 14:21, 23）。こういうわけで、わたしたちは次のような祈りをする必要があります、「主よ、あなたの愛をわたしに示してください。そして、あなたの愛でわたしに押し迫り、わたしがあなたを愛し、あなたに生きるようにしてください」。「主よ、わたしがいつもあなたを愛するようにしてください」。わたしたちは絶えず主に告げなければなりません、「主イエスよ、わたしはあなたを愛します。主よ、わたしをあなたの愛の中に保ってください！ あなたご自身をもってわたしを魅了してください！ わたしをいつも、あなたの愛すべき現在の臨在の中に保ってください」。
- F. わたしたちは彼を愛すれば愛するほど、ますますわたしたちは彼との交わりの中で彼の臨在を持つようになります。わたしたちが内在的な方法で主の回復の中にいることは、わたしたちが主イエスを愛することです。もしわたしたちが彼を愛さないなら、わたしたちは主の回復については終わりです——雅 1:1-4. I コリント 2:9. 16:22。
- G. この事に基づいて、わたしたちは次のように歌い、祈るべきです、「わたしはわたしの主を愛します。しかし、わたしの愛をもってではありません。なぜなら、わたしにはささげるものがないからです。主よ、わたしはあなたを愛します。しかし、すべての愛はあなたのものです。なぜなら、あなたの愛によってわたしは生きるからです」（補充本詩歌、240 番 1 節、全訳）。「あらゆる心が愛しているもの：イエスでなければ、他にあり得ません。主よ、わたしの心はあなたにささげられています。それを取ってください。なぜなら、それはあなたを最も愛するからです」（補充本詩歌、241 番 1 節、全訳）。